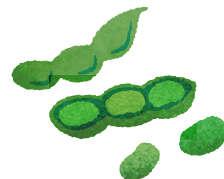


家庭菜園相談室

今月の
テーマ

家庭菜園におすすめ！ 本来の味を楽しもう！～エダマメ～



大豆を若いうちに収穫して食べる「エダマメ」。タンパク質やビタミンB1・B2が豊富で、栄養価の高い野菜ですが、収穫すると急激に風味が落ちてしまうため、すぐ食べられる家庭菜園がおすすめです。

作型目安

	品 種	4月	5月	6月	7月	8月	9月
エダマメ	早生品種	●	●	★	★	■	■

● 種まき ★ 中耕・土寄せ ■ 収穫

栽培の
ポイント

- ①エダマメの発芽適温は、25～30℃とやや高めです。15℃では発芽が遅れ、10℃以下では発芽不良となりますので、4月の早い時期の種まきでは、不織布などの被覆で地温を高めるとよいでしょう。
- ②どの土質でもよく生育しますが、保水力のある粘土質土壌が適します。排水性の良くない土壌の場合は、高畝にするなどの対策を行いましょう。土壌酸度はpH6前後の中性～弱酸性が適当です。
- ③栽培型は、春に種まきをして夏に収穫する夏大豆型品種（早生種）、夏に種まきをして秋に収穫する秋大豆型品種（晩生種）、その中間の中間種があります。
- ④豆類は、肥料が多すぎると茎や葉が過剰に育ち、花の数が減ってさや付きが悪くなるので注意してください。
- ⑤直接畑にタネをまくときは、鳥の食害を防ぐため、ネットや不織布などで対策しましょう。
- ⑥エダマメの収穫適期は、3～5日と短く、黄色く変色する前の朝の時間帯に収穫しましょう。

畑の準備

植え付けの2～3週間前に完熟堆肥2^{kg}/m²、苦土石灰100^g/m²をまき、深さ20^{cm}位までよく耕します。
植え付けの1週間前には化成肥料(8-8-8)50^g/m²を施します。

栽植密度

1条まきの場合は、畝幅60～70^{cm}、株間20～25^{cm}、畝高10～15^{cm}、2条まきの場合は、畝幅100^{cm}、条間50^{cm}、株間20～25^{cm}、畝高10～15^{cm}の畝を立てます。

種まき

直まきの場合は4月以降に種まきをします。畝に直径4^{cm}、深さ2^{cm}くらいの穴を、間隔20～25^{cm}程度で作し、穴に種を4粒まきます。薄く土をかぶせた後、水をたっぷりかけます。鳥の被害軽減、地温を高めるため不織布などを被せるとよいです。子葉が展開したら不織布を外し、2本を残し間引きします。

水やり

直まきは基本的に根付いてしまえば水やりをする必要はありませんが、花が咲いてからは水が足りないとさや付きが悪くなります。土の表面が乾いたら水やりをしましょう。

追肥

花が咲き始めたタイミングで、化成肥料(8-8-8)30～50^g/m²を追肥します。なお、肥料が多すぎると過繁茂となり、さやの付きが悪くなるので、樹勢を見ながら追肥しましょう。

中耕・
土寄せ

苗の倒伏防止や根の発達のために、除草を兼ねて株元へ土寄せをします。
土の表面を軽く耕して、株元へ土を寄せます。

摘心

晩生種や、畑が肥沃で株が伸びやすいところでは、本葉が5～6枚の頃に茎の先(頂芽)の柔らかいところを摘みます。側枝が出てさや数が増え、多収が期待できます(早生種では摘心しません)。

病虫害

アブラムシ類、カメムシ類、ヨトウムシ、幼虫がさやの中の豆を食べるシロイチモジマダラメイガが良く発生します。これらを農薬で防除する場合、適用作物は、「えだまめ」、「豆類(未成熟)」または「野菜類」になります。エダマメは、そのまま生育すると「だいず」になりますが、「だいず」で作物登録の農薬は、「えだまめ」で使用できませんので注意してください。

収穫

さやが大きくなり実がしっかり膨らんだら収穫適期です。収穫適期は3～5日と短いため、1株あたりのさやの8割くらいがふくらんだタイミングを逃さず収穫しましょう。エダマメとして収穫せず、そのまま枯れるまで放置しておけば大豆として収穫ができます。

その他、家庭菜園に関する相談は、JAの支店または営農経済センターまでご連絡ください。